

平成22年6月期 第2四半期決算短信

平成22年2月5日

上場取引所 JQ

上場会社名 株式会社エム・エイチ・グループ
 コード番号 9439 URL <http://mhgroup.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部マネージャー
 四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日
 配当支払開始予定日 —

(氏名) 佐藤 文彦
 (氏名) 田邊 芳彦

TEL 03-5411-7222

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年6月期第2四半期の連結業績(平成21年7月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年6月期第2四半期	916	△30.4	30	—	21	—	89	—
21年6月期第2四半期	1,316	△12.7	△76	—	△78	—	△171	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年6月期第2四半期	788.71	—
21年6月期第2四半期	△1,513.99	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年6月期第2四半期	1,282	550	42.9	4,985.73
21年6月期	1,424	502	35.3	4,431.29

(参考) 自己資本 22年6月期第2四半期 550百万円 21年6月期 502百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年6月期	—	0.00	—	—	—
22年6月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年6月期の連結業績予想(平成21年7月1日～平成22年6月30日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,900	△24.6	90	—	30	—	10	—	89.47

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有

新規 一社 (社名) 除外 2社 (社名 株式会社ジョリーブティック
株式会社エム・エイチ・グループ)

(注)詳細につきましては、5ページ4. その他(1)をご覧ください。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 有

(注)詳細につきましては、5ページ4. その他(3)をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年6月期第2四半期 113,321株 21年6月期 113,321株

② 期末自己株式数 22年6月期第2四半期 2,961株 21年6月期 一株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年6月期第2四半期 113,160株 21年6月期第2四半期 113,321株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、一昨年から続いている米国金融機関の信用不安に端を発した世界的な連鎖不況の中、国内企業におきましては設備投資の抑制など、厳しい経営環境ではあるものの、収益の減少傾向は緩やかになってきており、個人消費につきましても経済対策の効果により一部に明るい兆しが見えてきております。しかしながら、雇用、所得環境の悪化は緩和せず、未だ先行き不透明な状況が続いております。

このような経済環境のもと当社グループは、以下の内容を中心に取り組んだことにより、前第3四半期連結会計期間より記載していた「継続企業の前提に関する注記」を当第2四半期連結会計期間において解消いたしました。

- ① I T アパレルブランド事業会社である株式会社ジョリーブティックの全株式売却
- ② 優秀な人材の確保などによる美容室運営事業の収益基盤の確立
- ③ 株式会社エム・エイチ・グループとの合併による本社コストなどの販売費および一般管理費の削減
- ④ 連結納税制度適用による資金流出の軽減などの連結キャッシュフローの改善

以上の結果、当2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高916,118千円（前年同四半期比30.4%減）、営業利益30,047千円（前年同期は営業損失76,135千円）、経常利益21,379千円（前年同期は経常損失78,187千円）、四半期純利益89,250千円（前年同期は四半期純損失171,567千円）となりました。

また、財務体質の強化と円滑な事業活動の遂行ができる資本構成の構築及び今後において利益を計上した際に配当を行うことができる体質を整えるとともに、柔軟かつ機動的な資本政策に備えるため、平成21年11月3日に資本金の額を減少しその他資本剰余金及び別途積立金で繰越利益剰余金を欠損填補いたしました。

事業の概況につきましては以下のとおりであります。

当社グループが運営する美容室「モッズ・ヘア」は、「高い技術と心のこもったサービスを通じて、すべてのお客様に最高の喜びとやすらぎを提供し続けること」をミッションとして掲げ、アジアNo.1美容室を目指して事業展開を図っております。「モッズ・ヘア」美容室運営事業は、直営サロン運営事業、B S（ブランドシェア）と呼ばれるフランチャイズ店及び業務委託店の運営を行うB Sサロン運営事業、ウェディングやパーティースタイルなどをより華やかに彩るメイクアップ技術をリーズナブルな価格で提供する新しい形態のモッズ・ヘアパルティ運営事業、アジアにおける展開を図る海外B Sサロン運営事業並びに「モッズ・ヘア」美容室全体のスケールメリットを活かした美容室支援事業によって構成されております。

「モッズ・ヘア」美容室運営事業におきましては、引き続き知名度の高いブランドと独自のノウハウによる付加価値及びホスピタリティの高いサービスの提供、体系化された研修制度と女性スタイリストも安心して働ける労働環境の整備などにより実現される優秀な人材の確保、業務フローの合理化による管理コスト削減など、安定的で利益率の高い事業を意識してまいりました。その結果、売上高908,471千円（前年同四半期比6.9%減）、営業利益116,194千円（前年同四半期比232.8%増）となりました。

（直営サロン運営事業）

創業から現在に至るまで「モッズ・ヘア」の技術はもちろん、伝統、文化、優秀な人材の確保などの知識・経験及びお客様のニーズ並びにホスピタリティに応えるための新しいサービス、スタイルの開発などのすべてを集約させた直営サロン運営事業は、首都圏に11店舗を展開しており、国内にあるフランチャイズサロンのフラッグシップとしての役割を担っております。

（モッズ・ヘアパルティ運営事業）

これまで、結婚式等に出席する際のパーティーヘアは、美容室で行うのが一般的でしたが、より低価格で手軽にスタイリングをして欲しいという女性のニーズに応えるべく、メイクアップとヘアスタイリングに特化した新業態サロンとして、平成20年12月、東京・銀座コアに第1号店がオープンいたしました。美容室でありながら、カットやパーマといった施術は行わず、短時間、低料金でヘアメイクのみを行うという、これまでにないコンセプトのサロンとなっております。通常美容室よりも出店コストが低く、必要面積が10坪から15坪程度と省スペースであるため、集客力の見込める駅ビルや商業施設への出店が可能となります。

（B Sサロン運営事業）

「モッズ・ヘア」では、本部、加盟店という従来のフランチャイズ関係ではなく、共に一つのブランドをシェアするという意味でブランドシェアサロン、B Sサロンと呼んでおります。「モッズ・ヘア」サロンのフランチャイズシステムは、ライセンス契約による純粹フランチャイズ方式と当社グループ会社である株式会社アトリエ・エム・エイチが設備投資をし、サロン運営のみを委託する業務委託方式によって構成されております。平成21年12月末現在のB Sサロン数は90店舗、うち、業務委託方式によるB Sサロン数は4店舗となっております。

（海外B Sサロン運営事業）

全世界の「モッズ・ヘア」のサロン数は300を超えており、当社グループの株式会社エム・エイチ・パシフィックが展開するアジア地域でのサロン数が全体の約3分の1を占めております。韓国に18店舗、台湾に1店舗を展開しており、中国を含め他の地域につきましては、進出の環境が整い次第、随時進めていく予定であります。

(美容室支援事業)

当社グループでは、国内100店舗以上を擁する「モッズ・ヘア」サロンの事業展開を通じて様々なスケールメリットが創出されます。それをサービス化し、当第1四半期連結会計期間より連結範囲に適用いたしました株式会社ライトスタッフを通じて、一般の美容室に提供する事業を行っております。近年、キャッシュレスの環境が整備される中、決済方法として、クレジットカードのシェアが確実に伸びております。そのような中で、美容業界は未だに現金商売が根付いており、クレジットカードの利用率が低い状況であります。当社はその点に着目し、一般の美容室に向け、クレジットカード決済が通常より低い手数料率で利用できるサービスを提供しております。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ141,866千円減少し、1,282,189千円となりました。主な要因は、株式会社ジョリーブティックの連結範囲の除外などによる現金及び預金の減少22,265千円、売掛金の減少28,198千円、商品の減少11,329千円、投資事業組合の運用損などによる投資有価証券の減少44,501千円などによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ189,957千円減少し、731,326千円となりました。主な要因は、長期借入金の減少125,000千円、株式会社ジョリーブティックの連結範囲の除外などによる長期未払金の減少39,651千円、買掛金の減少21,846千円などによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ48,091千円増加し、550,862千円となりました。主な要因は、四半期純利益89,250千円、自己株式の取得40,950千円などによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、財務活動によるキャッシュ・フローでマイナスとなる一方、営業活動及び投資活動によるキャッシュ・フローがプラスに転じ、新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額を含めまして、全体として22,265千円のマイナス(前年同期は172,977千円のマイナス)となった結果、245,502千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は53,428千円(前年同期は使用した資金51,738千円)となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益58,385千円、子会社株式売却益30,767千円、法人税の還付額48,189千円などによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、得られた資金は81,272千円(前年同期は使用した資金43,250千円)となりました。これは主に貸付金の回収による収入37,510千円、出資金の分配による収入31,931千円、敷金の回収による収入36,061千円などによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は165,950千円(前年同期は使用した資金77,500千円)となりました。これは長期借入金の返済による支出125,000千円、自己株式の取得による支出40,950千円によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

美容室運営事業につきましては、個人事業者を含め競合が数多く存在する業界であり、より強い競争力が求められます。多様化する消費者のニーズ、お客様の期待するホスピタリティに応えるため、インターネット等を活かしたサービス向上プログラムの構築、新技術・新商品の開発、優秀な人材の確保などを着実に推し進め、合理的かつ継続的なコスト削減に取り組み、成長性と収益性を同時に追求してまいります。また、新規出店、既存店舗の移転及びリニューアルに関しましては、国内外を問わず直営店舗並びにB S店舗、業務委託B S店舗について、ブランド力及びコスト、中長期的な収益性の計画などを踏まえたうえで慎重に検討してまいります。

平成22年6月期の業績予想につきましては、平成22年1月26日に公表いたしましたとおり、第2四半期連結累計期間における業績予想を修正いたしました。なお、修正の必要があると判断した場合は、直ちに開示いたします。詳細につきましては、平成22年1月26日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

① 株式会社ジョリーブティック全株式の売却

平成21年8月14日をもちまして、当社の連結子会社であった株式会社ジョリーブティックの全株式を売却したため、当第1四半期連結会計期間より連結範囲から除外しております。

② 株式会社エム・エイチ・グループとの合併

当社の連結子会社であった株式会社エム・エイチ・グループは、平成21年9月30日開催の当社第20回定時株主総会での承認可決をもちまして、平成21年10月1日を効力発生日として当社（旧社名 株式会社ビーアイジーグループ）を存続会社、株式会社エム・エイチ・グループを消滅会社として合併（新社名 株式会社エム・エイチ・グループ）をしたため、連結範囲から除外しております。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書）

前第2四半期連結累計期間で投資活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含めておりました「出資金の分配による収入」（前第2四半期連結累計期間11,862千円）は重要性が増加したため、当第2四半期連結累計期間より区分掲記することいたしました。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	245,502	267,767
売掛金	155,555	183,753
商品	30,088	41,417
未収入金	65,946	75,716
その他	90,635	47,581
貸倒引当金	△10,032	△8,918
流動資産合計	577,696	607,318
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	365,513	421,368
減価償却累計額	△239,695	△276,022
建物及び構築物(純額)	125,817	145,346
工具、器具及び備品	80,802	94,263
減価償却累計額	△56,838	△63,558
工具、器具及び備品(純額)	23,964	30,704
その他	4,994	4,994
減価償却累計額	△460	△65
その他(純額)	4,534	4,929
有形固定資産合計	154,316	180,980
無形固定資産		
その他	12,943	12,950
無形固定資産合計	12,943	12,950
投資その他の資産		
投資有価証券	277,276	321,777
長期貸付金	64,970	69,207
差入保証金	245,857	245,862
敷金	142	53,621
破産更生債権等	50,407	49,940
繰延税金資産	13,512	—
その他	2,014	3,114
貸倒引当金	△116,947	△120,717
投資その他の資産合計	537,232	622,805
固定資産合計	704,492	816,736
資産合計	1,282,189	1,424,055

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	27,227	49,073
1年内返済予定の長期借入金	120,000	120,000
未払金	165,438	129,151
未払費用	45,265	53,541
未払法人税等	9,489	3,372
未払消費税等	7,479	18,193
ポイント引当金	—	3,699
その他	26,437	29,542
流動負債合計	401,339	406,574
固定負債		
長期借入金	55,000	180,000
受入保証金	196,240	205,840
長期未払金	75,845	115,496
その他	2,901	13,372
固定負債合計	329,987	514,709
負債合計	731,326	921,283
純資産の部		
株主資本		
資本金	500,000	2,499,447
資本剰余金	94,961	1,153,994
利益剰余金	13,532	△3,122,627
自己株式	△40,950	—
株主資本合計	567,543	530,814
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△17,317	△28,656
評価・換算差額等合計	△17,317	△28,656
新株予約権	637	613
純資産合計	550,862	502,771
負債純資産合計	1,282,189	1,424,055

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年12月31日)
売上高	1,316,800	916,118
売上原価	912,017	663,429
売上総利益	404,782	252,689
販売費及び一般管理費	480,918	222,641
営業利益又は営業損失(△)	△76,135	30,047
営業外収益		
受取利息	1,010	1,033
受取保険金	2,074	—
その他	5,139	1,941
営業外収益合計	8,224	2,975
営業外費用		
支払利息	1,680	3,250
為替差損	1,115	322
投資事業組合運用損	7,480	7,888
その他	—	182
営業外費用合計	10,276	11,644
経常利益又は経常損失(△)	△78,187	21,379
特別利益		
関係会社株式売却益	—	30,767
貸倒引当金戻入額	—	1,500
その他	—	4,739
特別利益合計	—	37,006
特別損失		
投資有価証券売却損	25,749	—
店舗閉鎖損失	3,606	—
減損損失	7,582	—
その他	128	—
特別損失合計	37,067	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△115,254	58,385
法人税、住民税及び事業税	19,078	16,707
法人税等調整額	19,618	△47,572
法人税等合計	38,696	△30,864
少数株主利益	17,616	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△171,567	89,250

(第2四半期連結会計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)
売上高	661,123	456,082
売上原価	449,171	331,219
売上総利益	211,951	124,863
販売費及び一般管理費	223,628	105,396
営業利益又は営業損失(△)	△11,676	19,467
営業外収益		
受取利息	16	1
その他	2,774	2,124
営業外収益合計	2,790	2,126
営業外費用		
支払利息	805	1,021
為替差損	884	—
投資事業組合運用損	6,950	6,769
その他	—	124
営業外費用合計	8,640	7,916
経常利益又は経常損失(△)	△17,527	13,677
特別利益		
その他	—	4,739
特別利益合計	—	4,739
特別損失		
投資有価証券売却損	22,233	—
減損損失	7,582	—
その他	128	—
特別損失合計	29,944	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△47,471	18,416
法人税、住民税及び事業税	5,060	13,805
法人税等調整額	18,951	△47,438
法人税等合計	24,011	△33,633
少数株主利益	5,883	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△77,367	52,049

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△115,254	58,385
減価償却費	30,647	17,304
のれん償却額	69,522	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	299	391
減損損失	7,582	—
受取利息及び受取配当金	△1,010	△1,033
支払利息	1,680	3,250
子会社株式売却損益(△は益)	—	△30,767
売上債権の増減額(△は増加)	△22,453	7,005
たな卸資産の増減額(△は増加)	38,534	△7,297
仕入債務の増減額(△は減少)	20,309	22,484
有価証券及び投資有価証券売却損益(△は益)	25,749	—
店舗閉鎖損失	3,606	—
投資事業組合運用損益(△は益)	7,480	7,888
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△876	△3,699
未払消費税等の増減額(△は減少)	—	△4,798
その他	△38,445	△61,659
小計	27,371	7,455
利息及び配当金の受取額	1,010	1,033
利息の支払額	△1,680	△3,250
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△78,440	48,189
営業活動によるキャッシュ・フロー	△51,738	53,428
投資活動によるキャッシュ・フロー		
子会社株式の取得による支出	△510	—
敷金の回収による収入	—	36,061
有形固定資産の取得による支出	△68,505	△3,046
投資有価証券の売却による収入	25,805	—
出資金の分配による収入	—	31,931
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	—	△21,189
貸付金の回収による収入	5,010	37,510
その他	△5,050	5
投資活動によるキャッシュ・フロー	△43,250	81,272
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△25,000	△125,000
自己株式の取得による支出	—	△40,950
子会社の自己株式の取得による支出	△20,000	—
その他	△32,500	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△77,500	△165,950
現金及び現金同等物に係る換算差額	△487	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△172,977	△31,249
現金及び現金同等物の期首残高	629,505	267,767
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	8,985
現金及び現金同等物の四半期末残高	456,528	245,502

(4) 継続企業の前提に関する注記

「継続企業の前提に関する注記」につきましては、当第2四半期連結会計期間より解消されたため、該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年7月1日 至 平成20年12月31日）

	美容室運営事業 (千円)	I Tアパレル ブランド事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	976,433	340,367	1,316,800	—	1,316,800
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	976,433	340,367	1,316,800	—	1,316,800
営業利益又は営業損失 (△)	34,907	7,011	41,918	(118,054)	△76,135

(注) 1. 事業の区分の方法

事業の区分は、売上集計区分をベースに、事業の種類・性質の類似性を勘案して区分しております。

2. 事業の内容

美容室運営事業：美容室の運営・オリジナル商品の開発及び販売事業等

I Tアパレルブランド事業：アパレルブランドのショップの運営及びインターネット販売等

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年7月1日 至 平成21年12月31日）

	美容室運営事業 (千円)	その他 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	908,471	7,647	916,118	—	916,118
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	908,471	7,647	916,118	—	916,118
営業利益	116,194	2,299	118,493	(88,446)	30,047

(注) 1. 事業の区分の方法

事業の区分は、売上集計区分をベースに、事業の種類・性質の類似性を勘案して区分しております。

2. 事業の内容

美容室運営事業：美容室の運営及び支援・オリジナル商品の開発及び販売事業等

3. その他の売上高につきましては、平成21年8月14日に株式譲渡いたしました株式会社ジョリーブティックに対するコンサルティング売上であります。

[所在地別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年7月1日 至 平成20年12月31日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年7月1日 至 平成21年12月31日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

[海外売上高]

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年7月1日 至 平成20年12月31日）

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年7月1日 至 平成21年12月31日）

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年7月1日 至 平成21年12月31日）

1. 株式会社ライトスタッフの連結適用

① 当社の完全子会社である株式会社ライトスタッフは、美容室支援事業を行っており、美容室運営事業のスケールメリットを活かした事業を行っていることから、今後重要性が増すことが予想されるため、当第1四半期連結会計期間より連結範囲に適用いたしました。

② 連結範囲に適用する子会社の概要

商号 株式会社ライトスタッフ

事業内容 美容室支援事業

売上高 5,524千円（前事業年度）

当期純利益 △116千円（前事業年度）

総資産 43,901千円（前事業年度）

③ 当第1四半期連結会計期間連結適用時の株主資本変動額

利益剰余金 △11,570,875円

2. 自己株式の取得

当社は、当第2四半期連結累計期間におきまして、平成21年12月21日開催の取締役会決議に基づき、平成21年12月22日のジャスダック証券取引所立会外取引市場で、自己株式として2,961株を40,950千円で取得いたしました。なお、当第2四半期連結会計期間末における自己株式の株式数は2,961株、取得額は40,950千円となっております。

6. その他の情報

資本金の額の減少並びに剰余金の処分

財務体質の強化と円滑な事業活動の遂行ができる資本構成の構築及び今後において利益を計上した際に配当を行うことができる体制を整えるとともに、柔軟かつ機動的な資本政策に備えるため、平成21年9月30日開催の当社第20回定時株主総会の承認決議をもって平成21年11月3日に資本金の額を減少し、その他資本剰余金及び別途積立金で繰越利益剰余金を欠損填補いたしました。

①減少した資本金の額

資本金2,499,447,550円のうち1,999,447,550円を減少させ、減少額全額をその他資本剰余金に振り替え、減少後の資本金を500,000,000円としております。

②減少の方法

発行済株式総数の変更は行わず、減少する資本金の額1,999,447,550円の全額をその他資本剰余金に振り替えております。

③剰余金の要領

資本金の額の減少により増加するその他資本剰余金3,153,442,239円のうち、3,058,480,881円と別途積立金121,700,000円全額を繰越利益剰余金に振り替え、欠損填補に充て、填補後のその他資本剰余金を94,961,358円としております。